

今朝も皆さまとともに主を礼拝できますことを感謝します。8月の第1主日を迎えました。皆さまの日々の歩みの祝福と守りのため、続けてお祈りしています。今朝もエペソ人への手紙を通してともにみことばに聞いていきます。前回は、悪魔の策略に対する私たちのあり方についてみことばから教えられました。6章の11-12節でこう言われていました。

悪魔の策略に対して強く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

聖書はこの世界の、あらゆる事柄の背後にある悪魔の策略を語ります。私たちを神さまから引き離し、教会の交わりを壊そうと狙っている悪魔の存在。その策略に惑わされることなく、強く立っていくこと。信仰を強く保ちイエスさまを見上げてこの地を生きていくことの大切さを前回は教えられました。そして今日の箇所では、強く立つことができるよう、神の武具を取るようという勧めが前回に続いて語られています。

真理と正義

今日の13節をもう一度お読みします。

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて強く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

「邪悪な日」と言うのは、やがてくる大きな苦難や患難のことを指しています。今もすでに苦難や試練の時代ではありますが、さらに悪い日が来る、終わりの日の前に大きな患難の時があると聖書は記しています。マルコの福音書13章19-20節でイエスさまはこうおっしゃいました。

それらの日には、神が創造された被造世界のはじめから今に至るまでなかったような、また、今後も決してないような苦難が起こるからです。

もし主が、その日数を少なくしてくださらなかったら、一人も救われないでしょう。しかし、主は、ご自分が選んだ人たちのために、その日数を少なくしてくださいました。

具体的にこれがどのようなもので、いつのことを指すのか、それは分かりません。しかし私たちはこの患難の時、邪悪な日がいつきても大丈夫なように備えている必要がある。そう聖書は教えています。悪魔からの攻撃や苦難に耐えることができるように、また一切を成し遂げて強く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい、とパウロは今日の箇所で語っていました。悪魔の策略に惑わされず、与えられている使命を全うし、いつまでも信仰に強く立つことができるように。神さまのすべての武具を取っていく。そのことをパウロは勧めるのです。

そして14節以降には具体的に神の武具にはどのようなものがあるのかが語られています。

そして、強く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

パウロは繰り返し「強く立ちなさい」と語ります。彼はこの手紙を書いた時、牢屋に入れられていたと考えられています。そしてパウロは実際のローマの兵士を身近に見ながらこの手紙を書いたのではないかと想像できます。ローマ兵が武装し立っている姿を見て、そういった武力的な意味での武装ではなく、信仰の武装、心に神さまの武器を備えていくことの大切さ。それをパウロは語っているということです。兵士が武装し勇ましく強く立っているように、信仰の兵士、神の勇者として、強く立つことをパウロは語るのです。

まず腰には真理の帯を、とあります。真理というのは正しいこと、という意味です。そして胸には正義の胸当てを着けなさいとパウロは語ります。「正義」とは正しいことと悪いことがちゃんと区別され、間違いや不正が正されていくことです。真理の帯と正義の胸当て。まず私たちが悪魔との戦いを考える時に大事なものは、この真理と正義である。何が正しいことで何が間違っているのか、神さまの前に何が正しく真っ直ぐなことであるのか、私たちはわきまえ知る必要があるということです。神さまは真理の神さまであられ、正義の神さまであられる。正しいお方である。これが聖書が私たちに教えていることです。そして真理はイエスにあると、エペソ人への手紙でパウロは告白していました。聖書の教える真理に立ち続ける信仰、神さまの前に何が正しく何が間違っているのか。何が正義であり悪であるのか。それをわきまえ知るために祈りみことばに聞き、また示された真理に立ち続けること。真理であられるイエスさまへの信仰に強く立って歩むことが大切だということです。

悪魔の策略、悪しき者の攻撃ということを考える時、いわゆる異端の問題があります。異端というのは正当な信仰から外れた信仰のあり方、聖書が教えていることとは違うことを語ったり強調したりする教えのことです。異端の大きな問題の一つとして、イエス・キリストは神ではない、と語るそんな教えがあります。真理であるイエスさまを告白しない、代わりに教祖が神であると言ったり、イエス・キリストの十字架以外に救いがあると語ったりすることが

あるわけです。先ほど読んだ苦難の時を教えるイエスさまのみことばには、こういう続きがあります。マルコの13章21-23節。

そのときに、だれかが、『ご覧なさい。ここにキリストがいる』とか、『あそこにいる』とか言っても、信じてはいけません。偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちを惑わそうと、しるしや不思議を行います。あなたがたは、気をつけていなさい。わたしは、すべてのことを前もって話しました。

偽キリスト、偽預言者が現れて、人々を惑わそうとする。それを信じて騙されてはならない、とイエスさまは語られました。実際に、これまでの世界の歴史の中でも偽キリスト、偽預言者による教えというのは何度も登場してきています。そのような間違っただけの教えに惑わされないこと、真理をしっかりと握って、イエスさまへの信仰に立って物事を判断していくこと。間違っていることは間違っているとちゃんと声を上げていくこと。それが私たちには大切なことです。パウロはこう語っていました。前回も引用しましたエペソ人への手紙4章14-15節。

こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、

むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。

間違っただけの教えに振り回されたり惑わされたりするのではなく、むしろ愛をもって真理を語っていくこと。イエスさまの真理にしっかりと立ち続けキリストに向かって成長していく私たちと続けてさせていただきたいと願います。

平和の福音

一方で、そのように真理や正義を身につけることの大切さを強調しつつ、パウロは足には平和の福音の備えをはきなさい、と15節で言っています。

足には平和の福音の備えをはきなさい。

私たちが身につけるべき真理や正義は、決して独りよがりのもの一方的なものであってはなりません。そこには平和が必要である。他者と和解する心、人を赦し受け入れる心。それが私たちにはどうしても必要だということです。平和の福音、とは一体なんなのでしょうか？福音とはそもそも何か。それは色々な言い方ができますが、聖書の教える福音、すなわち良い知らせとは「あなたは神さまに愛されている」ということです。あなたは神さまに愛されている。あなたには愛される価値がある。御子イエス・キリストを十字架で死なすほどに、あなたは神さまに愛されている。これが聖書の教える福音です。それはここにいる一人ひとり、そしてこの世界にいるすべての人に向けられている神さまからの愛のメッセージです。この福音は平和の福音である。そう今朝のみことばは私たちに教えます。私たちと神さまとの間に平和をもたらし、私たち同士の間にも平和をもたらす良い知らせ。「あなたは愛されています」「神さまはあなたを愛しています」「私もあなたを愛します」これを語り合うことのできる平和の福音が、私たちには委ねられているのです。

この平和の福音を足元に置くこと。平和の福音を土台にし、いつでもこの平和の福音を語ることのできる備えをして地上の歩みを進んでいくこと。それが神の武具を取ることを考える上で大事だということです。真理や正義ももちろん大切です。しかしその足元にあるのは福音。それも平和の福音である。そのことを私たちは覚えていたい。神さまとの和解、人との和解。そこにこそ悪魔に立ち向かう秘訣があるのだということです。

私たちに対する悪魔の策略は、先ほどの異端の問題以外にもたくさんあると思いますが、その一つとして人との関係を引き裂くことや壊すために、悪魔は働いていると言うことができると思います。私たち教会の中にも、家庭や友人関係にも時に軋轢が起り関係にヒビが入ってしまいそうなことがある。前回も言ったように何でもかんでも悪魔のせいにするわけではありませんが、人との間に敵意や憎しみを植え付け関係を壊すことを悪魔は狙っている。そのように言えるのです。

私たちの交わりを壊そうとする悪魔の策略に私たちは「平和の福音」をもって対抗していく。私たちは正義や真理を、時に相手を倒すために使ってしまうことがあります。あの人は間違っている。私は悪くない。そんなことを言ったり証明したりするために、みことばを持ち出して真理や正義を語ってしまうことがある。そのように思います。私自身も、そうやって人を裁いてしまったり責めてしまったりする弱さがあることを思います。しかし聖書の語る真理や正義は、平和の福音とセットのものである。平和を土台とした真理や正義である。イエスさまの語る真理、福音の真理は私たちの間に平和をもたらすものであることを私たちは覚えていきたいのです。悪魔の策略に私たちは「平和の福音」をもって対抗していく。私たちが人に怒りを感じたり不満を覚えたりする時、「平和の福音」をもって相手と接することができるか。そんなことが問われている。怒りを覚える相手に対し「あなたは愛されています」と言う平和の福音を、私たちは相手にあの人に語りかけることができるか。そんなことを立ち止まって考えたいと思うのです。

どんな時にもどんな人にも「あなたは愛されています」「私はあなたを愛します。赦します」そう語る平和の福音。イエスさまに愛されている者として赦されている者として、平和の福音を足元に置き、平和の福音をいつでもどこでも語れる備えを持って私たちは生きる者とされたいと思います。

そしてこの平和の福音は、私たち個人同士の関わりや教会の交わりだけにとどまらず、もっと大きな世界大の問題にも大切なことです。8月に入り、平和を覚える季節を迎えています。今週は広島、長崎での原爆投下の日を迎え、来週には終戦記念日も控えています。今年は戦後80年の年でもあり、ますます平和が日本にそして世界に及ぶことを心から祈られる。そんな時を過ごしています。この国が二度と戦争の過ちを犯さないように、各地で起こっている戦争が1日も早く終わるようにと心から願うものです。

争いや敵意に満ちたこの世界に必要なもの。それは「平和の福音」です。どんな国の人もどんな人種や背景を持っている人も、イエス・キリストのゆえに、神さまの愛のゆえに愛し合い一つとなっていく。どんな人も互いに「あなたは愛されている」「あなたには価値がある」そんな言葉が呼び交わされる平和がこの世界に訪れることを私たちは心から祈り求める者でありたい。この地に本当の正義と本当の平和が実現することを祈りつつ、身近なところに家庭に学校に職場に地域に、イエスさまにある平和を作る者として歩んでいきたいと思います。

足には平和の福音の備えをはきなさい。

今週もまた、それぞれの地に平和の福音の備えをもって遣わされて参りましょう。どんな時も変わらないイエスさまの愛と真理、このお方にある平和のうちに今週もそれぞれの地で神さまを愛し人を愛して生きる私たちとされたいと思います。

祈ります。「天のお父さま。みことばをありがとうございます。イエスさまにある正しさと、平和。この二つを身につけて生きることの大切さを教えられました。あなたの前に何が正しく何が間違っているのかをわきまえ生きる力を私たちにお与えください。そして、イエスさまが与えてくださった平和の福音「あなたは愛されている」という良き知らせを携えて、どんな人にも愛をもって平和に関わることのできる私たちとどうかならせてください。この国この世界にどうかこの平和の福音が満ち溢れ、争いや敵意に満ちたこの地にあなたの正義と平和が実現していきますように。今週もまた遣わされる地で平和を作る者となることができますように私たちをお導きください。みことばの恵みに感謝し、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」